

東京藝術大学 美術学部建築科

Department of Architecture, Tokyo University of the Arts

☰ <http://arch.geidai.ac.jp/>

- ご挨拶
- 建築科について
- 教育について
- 学生生活と進路
- 入試について

東京藝術大学 美術学部建築科

Department of Architecture, Tokyo University of the Arts

☰ <http://arch.geidai.ac.jp/>

- ご挨拶
- 建築科について
- 教育について
- 学生生活と進路
- 入試について



東京藝術大学美術学部建築科

Department of Architecture, Tokyo University of the Arts

≡ <http://arch.geidai.ac.jp/>

## 概要

東京藝術大学美術学部建築科が日本の他大学の建築学科と大きく異なる特徴は、工学系ではなく美術系に属する点です。建築家の養成を目指す唯一の国立の教育機関であり、教育の軸を建築設計に置いています。

幅広く科学的知識や思考力を養うと共に、感受性の鋭さや表現の独自性を追求し、建築設計実技を通して建築家として必要な総合的能力を養います。

## 教員 (平成25年度)

建築設計：乾久美子 元倉真琴 トム・ヘネガン

環境設計：北川原温 ヨコミヅマコト

構造計画：金田充弘

建築理論：光井渉 野口昌夫

専任教員9人に対し、1学年の定員15人という少人数の恵まれた環境で、個性と創造力を伸ばす自由かつ緊密な教育が行われています。また、学生にとって身近な相談相手でもある教育研究助手や、各専門分野の第一人者である非常勤講師も数多く在籍しています。





岡田信一郎 大阪市中央公会堂 (1917)



吉田五十八 歌舞伎座 (1951)



吉村順三 軽井沢の山荘 (1962)



六角鬼丈 東京武道館 (1989)





三上祐三(担当) シドニーオペラハウス (1973)



宮脇檀 ブルーボックス (1971)



柳澤孝彦 第二国立劇場 (1997)



山本理顕 埼玉県立大学 (1998)



東京藝術大学 美術学部建築科

Department of Architecture, Tokyo University of the Arts

☰ <http://arch.geidai.ac.jp/>

- ご挨拶
- 建築科について
- **教育について**
- 学生生活と進路
- 入試について



# 空間



「中村キース・ヘリング美術館」(設計:北川原温)  
Photo:大野繁

建築は、その内部に入ることができ、使うことができる有用なものです。街の中に建ち、多くの人が目にするようになります。

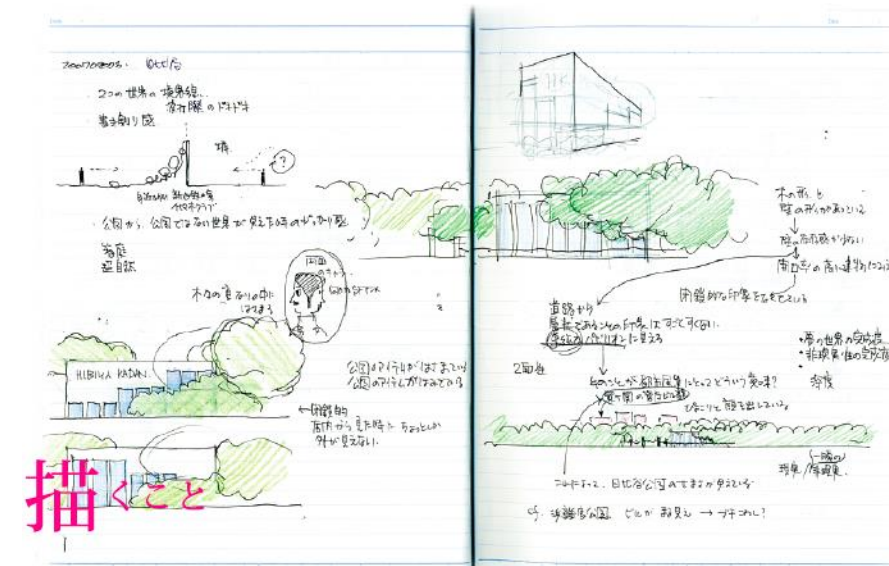
# 構造



「島キッチン」(設計:安部良、構造:金田充弘研究室)  
Photo:富井雄太郎

建築は、地震や風雪に耐え、人々を守るものでなくてはならず、そのために「構造」を考える必要があります。

# 描くこと



「フラワーショップH」のためのスケッチ (乾久美子)

建築は、様々な人とコミュニケーションしながらつくっていきます。そのために、スケッチや図面を描き、模型をつくります。

# ディテール



「富弘美術館」の施工現場 (設計:ヨコモソマコト)

多くの材料から成り立っている建築物には、モノとモノをどのように組み合わせるのか、様々な工夫や知恵があります。





「ル・トロネ修道院」

歴史

建築の歴史は人類と共にあり、とても長いものです。古今東西、様々な建築の実践、展開、蓄積、多様性があります。

環境



宮城県雄勝半島の「船越の浜」の野幌より (雄勝スタジオ)

都市的なプロジェクトやまちづくりに関わることもあります。地球環境やその地域固有の気候風土も考察します。



社会

建築は社会と深く関わります。それを使う人々だけではなく、未来の社会へとつながっていくものです。



未来

建築は、物理的な建築物をつくるだけではなく、より広がりを持った構想を表現することでもあります。

「Young Architects Competitions "Smart Harbor"」 (トム・ヘーネガン研究室)



## カリキュラム(学部)

建築科の教育は「建築の設計」の修得に重点を置いていることに特徴があります。幅広く科学的知識や思考力を養うと共に、感受性の鋭さや表現の独自性を追求できる教育システムを編成しています。直接的な実技指導を通して、建築に対し強い情熱を持った人間を養成することを目指しています。

カリキュラムは専門実技（建築設計）と専門学科で構成され、前者は学年に応じた設計課題によって段階的に進められます。



## 家具 (1年生)

学部1年生 椅子展 "Priti Old Masta"

木で実際に椅子をつくります。設計から制作、展覧会までを自ら行うことで、手や身体を通してデザインを学びます。



## 基礎 (1年生)

学部1年生 基礎：建築の空間・仕組みを学ぶ  
「吉村山荘軸組模型」市原昇

巨匠・吉村順三が設計した山荘を実際に訪れ、模型をつくり、その図面を描くことで、構成や考え方の基礎を学びます。

### ■ 1年次

建築の設計に向かう導入部として、課題は建築の構成やその表現方法などの基礎的な学習と、各自の創造性の探求を目標に構成したものです。また、「木」を素材とした椅子の課題は、その設計から実物の制作までを自ら行うことで、手や身体を通してデザインを学ぶ重要な課題です。





## 実測 (2年生)

寺院などの古建築を対象とし、その構成を観察し、正確に記録し、表現する体験学習です。



## 架構 (2年生)

建築の「構造」を学びます。力学の基礎を学習し、実際に構造モデルをつくってみることで、構造デザインを体得します。

### ■ 2年次

課題は前期の「住宅」から後期の「学校」へ、個人の空間から集団の空間へと対象を広げていきます。各自の経験を起点とし、諸事例に学び想像力を広げながら新たな提案を試みます。また、空間やそのかたちの実在化を学ぶ「構造デザイン」の課題が後期に設定されています。さらに、夏期に実施する「実測」は、実際の建築に触れ、その構成を観察し、正確に記録し、表現する貴重な体験学習です。





地区設計 (3年生)

学部3年生 地区設計「大宮プロジェクト」

住宅 (1年生)、集合住宅 (2年生) から、より大きく、公共的な建築の設計課題です。都市や街についても学びます。



古美術研究旅行 (3年生)

「東大寺南大門」

京都・奈良を中心に約二週間にわたり、伝統的な建築や空間を観察し、現代における創造との連続性や違いを考えます。

### ■ 3年次

建築の空間的な組織を学ぶために、集合的な建築や複合的な建築の課題に取り組みます。また、建築の社会性に広く目を向け、多様な価値観によって構築されている世界との関わりようを各自が見出すことを目指しています。また後期に実施する「古美術研究旅行」は、日本の伝統的な建築やその空間の仕組みを改めて見つめ、現代の創造性との関わりを考えます。





プレディプロマ (4年生)

分析やリサーチからプログラムの立案、表現方法などを学んだ上で、新しいプロジェクトの提案を行います。



卒業制作 (4年生)

テーマや条件、プログラムの設定等すべてを自ら行い、各人の集大成となる作品を制作していきます。

## ■ 4年次

3年間で学んだこれまでの経験を駆使して都市的なスケールの空間に取り組みます。分析やリサーチからプログラムの立案、表現方法などを学びながらプロジェクトの提案を行います。

その後、卒業制作へと繋がるプレディプロマ課題が設定され、夏期以降は卒業制作に取り組みます。卒業制作は、テーマや条件、プログラム設定等をすべて自らが行い、長い時間とエネルギーをかけて各人の集大成となる作品を制作していきます。



# 実技年間カリキュラム

月	日	週	1年	2年	3年	4年			
4	1~5	1	ガイダンス	住宅Ⅰ 北川原・長坂	教育施設+地域施設 ヨコミゾ・乾・藤村・小野田	建物と表現 北川原・林			
	8~12	2	Introduction to Architecture ヘネガン・橋本						
	15~19	3							
	22~26	4							
	30~2	5							
5	7~10	6	場所 元倉・安宅	住宅Ⅱ ヘネガン・河内	ブレディプロマ ヘネガン  7月上旬 卒業制作 テーマ発表				
	13~17	7							
	20~24	8							
	27~31	9							
6	3~7	10	家具(デザイン) 乾・福井・原口	合同講評 実測7月下旬 光井・中村	合同講評	合同講評			
	10~14	11							
	17~21	12							
	24~28	13							
7	1~5	14	合同講評	合同講評 実測7月下旬 光井・中村	合同講評	合同講評			
	8~12	15							
	16~19	16							
	22~26	17							
夏 期 休 業									
10	1~4	1	家具(制作) 乾・福井・原口	架構 金田・倉重	古美術研究	卒業制作 全教員			
	7~11	2							
	15~18	3							
	21~25	4							
11	28~	5	基礎 野口・稲葉	集合住宅 ヨコミゾ・佐々木	地区設計 元倉・高見	11月初旬 中間審査			
	5~8	6							
	11~15	7							
	18~22	8							
	25~29	9							
12	2~6	10	合同講評	合同講評	合同講評	提出 講評			
	9~13	11	塑造 彫刻科教員	共通短期課題	共通短期課題		共通短期課題		
	16~20	12							
	24~27	13							
1	6~10	14	共通短期課題			共通短期課題		共通短期課題	提出 講評
	13~17	15							
	20~24	16							
	27~31	17							
単位		設計製図Ⅰ 製造	12単位 4単位	設計製図Ⅱ 実測	10単位 2単位	設計製図Ⅲ	10単位	設計製図Ⅳ 卒業制作	6単位 14単位
単位(合計)		16単位		12単位		10単位		20単位	





合同講評会



特別講演会



東京藝術大学 卒業・修了作品展



せんだいデザインリーグ  
卒業設計日本一決定戦



# 科目

区分	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	修得単位数
必修科目	設計製図 I (12)	設計製図 II (10)	設計製図 III (10)	設計製図 IV (6)	98
	塑 造 (4)	実 測 (2)	建築計画 I (2)	卒業設計 (14)	
	建築構法 (2)	構造力学 II (2)	建築計画 II (2)		
	構造計画 (2)	構造材料演習 I (2)	近代建築史 I (2)		
	構造力学 I (2)	建築材料 I (2)	近代建築史 II (2)		
		建築材料 II (2)	都市設計 (2)		
		環境工学 I (2)	建築設備 (2)		
		環境工学 II (2)	建築社会制度 (2)		
			建築施工 I (2)		
			建築施工 II (2)		
			構造材料演習 II (2)		
			建築一般構造 (2)		
	22単位	24単位	32単位	20単位	
			古美術研究 (10)	10	
	指定科目				16
	建築概論 I (2)	西洋建築史 I (2)			
	建築概論 II (2)	西洋建築史 II (2)			
	日本・東洋建築史 I (2)				
	日本・東洋建築史 II (2)				
	CAD図法演習 I (2)				
	CAD図法演習 II (2)				
	12単位	4単位			
選択科目	共通科目				20
合 計					144



# シラバス

科目番号	1A223	授 業	建築概論 I	教員名	元倉 眞琴
前期	金 2	科目名		2 単位	学部生
授業テーマ	この授業は「建築」に関する専門的な技術や知識を学ぶことを目的とするのではない。デザインされた建築や無名の建築などが「どのようにつくられてきたか」その背景を幅広い視野で見えていきます。そして「建築とは何だろう」という問いについて考え、最終的には「建築」に対する各人の見方＝物差しを見つけることを目標にしています。				
授業計画及び内容	<p>〈前期〉建築入門編 建築とは何だろう</p> <p>序 建築の世界とそのおもしろさ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 衣服としての建築</li> <li>2 殻（シェルター）としての建築</li> <li>3 巢（樹と地）としての建築</li> <li>4 移動する建築（ゲルについて）</li> <li>5 機械としての建築 1</li> <li>6 機械としての建築 2</li> <li>7 箱としての建築 1</li> <li>8 箱としての建築 2</li> <li>9 ミクロコスモスとしての建築</li> <li>10 ランドスケープとしての建築</li> <li>11 集合としての建築</li> <li>12 色彩としての建築</li> <li>13 建築とは何だろう</li> </ol>				
受講に当たっての留意事項	ビデオやスライドを多く使う。幾つかのレポートや小課題が課せられる。				
成績評価方法	レポートや小課題の評価×出席率				
教科書／参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松山巖「建築はほほえむ」西田書店・土居義岳監修「建築キーワード」住まい学大系099、住いの図書館出版局</li> <li>・五十嵐太郎編「建築の書物／都市の書物」IMX出版</li> <li>・バーナード・ルドフスキー「建築家なしの建築・SD選書」鹿島出版会</li> </ul>				



東京藝術大学 美術学部建築科

Department of Architecture, Tokyo University of the Arts

☰ <http://arch.geidai.ac.jp/>

- ご挨拶
- 建築科について
- 教育について
- 学生生活と進路
- 入試について

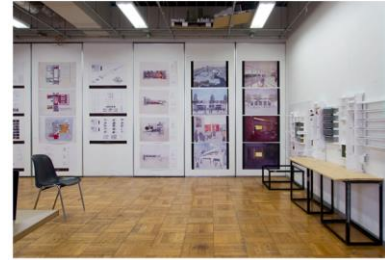
# 設備・環境

学究と制作のために、日本屈指の充実した設備が整えられています。ひとりひとりに十分な広さを持った製図室（スタジオ）、講評や展示を行うスペース（FM・MS）、最新の3Dプリンタなどを備えたマテリアル・アウトプット・スタジオ（MOS）、構造実験室、建築科専用の図書室、などがあります。

また、美術学部の木工・金工などの工房、芸術情報センター（AMC）、美術学部附属 写真センターなどの施設も利用することができます。

隣接する上野公園は豊かな緑を有し、世界有数の美術館・博物館が集中するエリアです。

製図室（スタジオ）



建築科図書室



Factory Museum



マテリアル・アウトプット・スタジオ

# 進路・資格

学部卒業生の過半は大学院に進学します。卒業生・修了生の最近10年の主な就職先は以下の通りです。

青木淳建築計画事務所 / 安藤忠雄建築研究所 / 磯崎新アトリエ / 伊東豊雄建築設計事務所 / SANAA / 内藤廣建築設計事務所 / 日建設計 / 榎総合計画事務所 / 三菱地所設計 / アラップ / ザハ・ハディッド・アーキテクツ / 大林組 / 清水建設 / 竹中工務店 / 東日本旅客鉄道 / その他、メーカー、官公庁・自治体・大学など。また、自ら設計事務所を設立して独立する者も多くいます。

学部卒業時に二級建築士受験資格、卒業後2年以上の実務経験を経て一級建築士受験資格が得られます。

# 国際交流

国際交流協定校（2013年8月時点で13校）を中心に、短期留学など活発な国際交流を行っています。

中央美術学院 / リヒテンシュタイン国立大学 / シュトゥットガルト美術大学 / 中国美術学院 / ミマール・シナン美術大学 / 韓国芸術総合学校 / ウィーン工科大学 / ミラノ工科大学 / ウィーン応用芸術大学 / トリノ工科大学 / カタルーニャ工科大学 / アルト大学 / ウィーン美術アカデミー



東京藝術大学 美術学部建築科

Department of Architecture, Tokyo University of the Arts

☰ <http://arch.geidai.ac.jp/>

- ご挨拶
- 建築科について
- 教育について
- 学生生活と進路
- 入試について

# 東京藝術大学美術学部建築科の学部入試について

## 1 入学定員

15人（前期日程）

## 2 出願期間

平成26年1月27日（月）～2月5日（水）  
郵送による出願のみ  
（消印が上記期間）

※ 募集要項は11月下旬に発行予定

## 3 センター試験

### 5 教科6科目

国語

数学Ⅰ・数学A

数学Ⅱ・数学B

外国語（英・独・仏・中・韓から1）

地理歴史（世A、世B、日A、日B、地理  
A、地理Bから1）

理科（物Ⅰ、化Ⅰ、生Ⅰ、地学Ⅰから1）

※ 平成27年度からの理科は基礎科目から2科目選択、又は本科目から1科目選択

入試に関する情報は

<http://www.geidai.ac.jp/enter/index.html>



## 東京藝術大学美術学部建築科の学部入試について

### 4 個別学力検査等（実技試験）

- 1次 空間構成  
平成26年3月5日
- 2次 総合表現  
平成26年3月8日

### 5 配点等

- センター試験  
800点満点
- 1次  
個別学力検査等の成績と大学入試センター試験成績により合否を判定する。
- 2次  
2次個別学力検査等までの成績に、大学入試センター試験成績と出願書類（調査書等）の審査を加え、総合的に判定し、合否を決定する。

入試に関する情報は

<http://www.geidai.ac.jp/enter/index.html>

## 過去の問題 (平成25年度 空間構成)

### [問題 1]

次の図に示された立方体1つと直方体1つが、平行光線①、②によってXY平面に投影された形状をそれぞれ解答欄に図示し、その総面積を求めなさい。

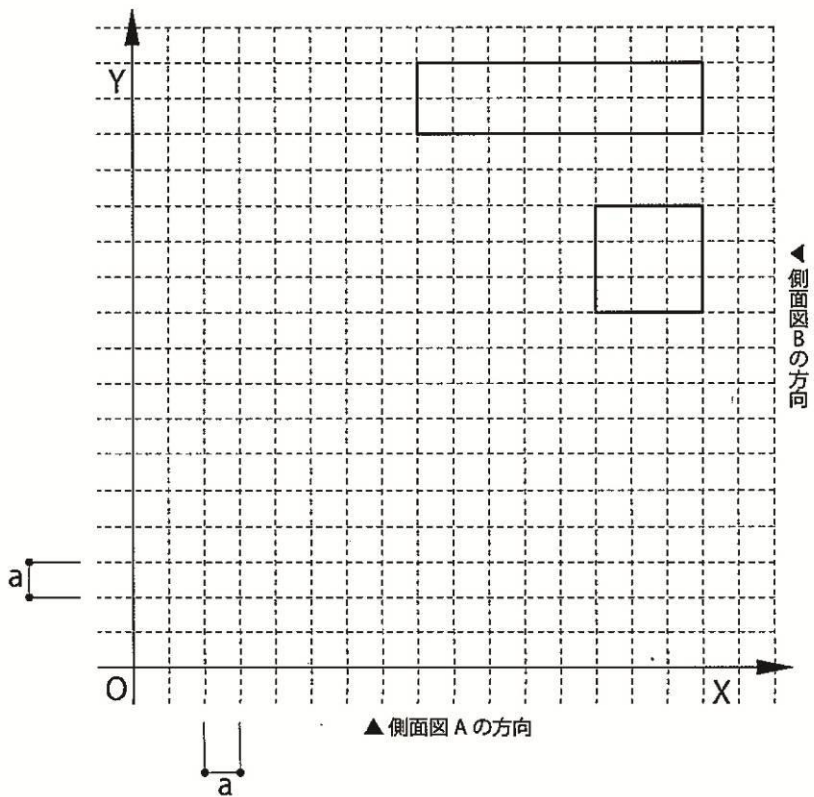
上面図の右横に示された矢印は光線の向きをあらわす。光線のXY平面との入射角は $45^\circ$ である。面積の答えに平方根を残してよい。

建築科の過去問題については

[http://www.geidai.ac.jp/info/pdf/paper25a\\_kenchiku.pdf](http://www.geidai.ac.jp/info/pdf/paper25a_kenchiku.pdf)



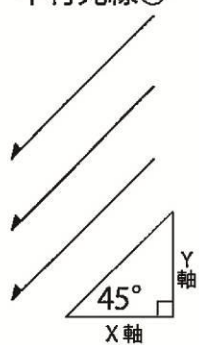
上面図



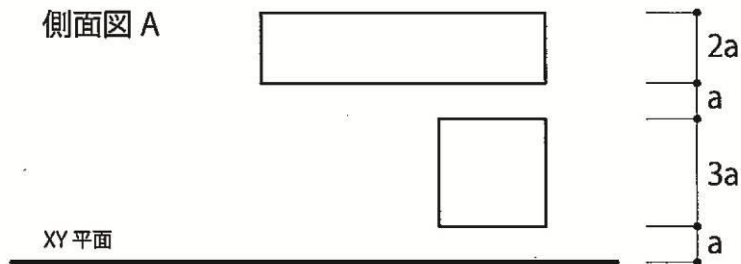
平行光線①



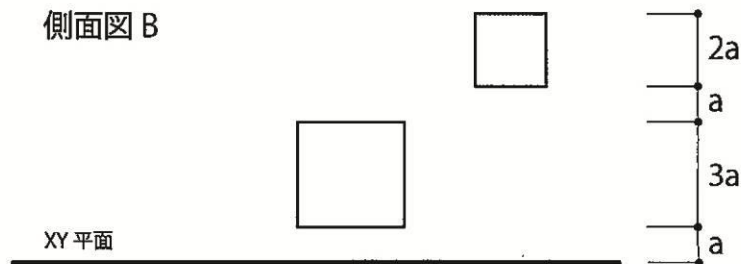
平行光線②



側面図 A



側面図 B



## 過去の問題（平成25年度 空間構成）

### [問題 2]

〔問題 1〕で示された2つの立体があるXY平面上の空間に、任意のプロポーシヨンの円すい1つを任意の位置に加えることによって、その空間を美しく構成し、下記の【条件】に従って、解答用B3判画紙に描写しなさい。

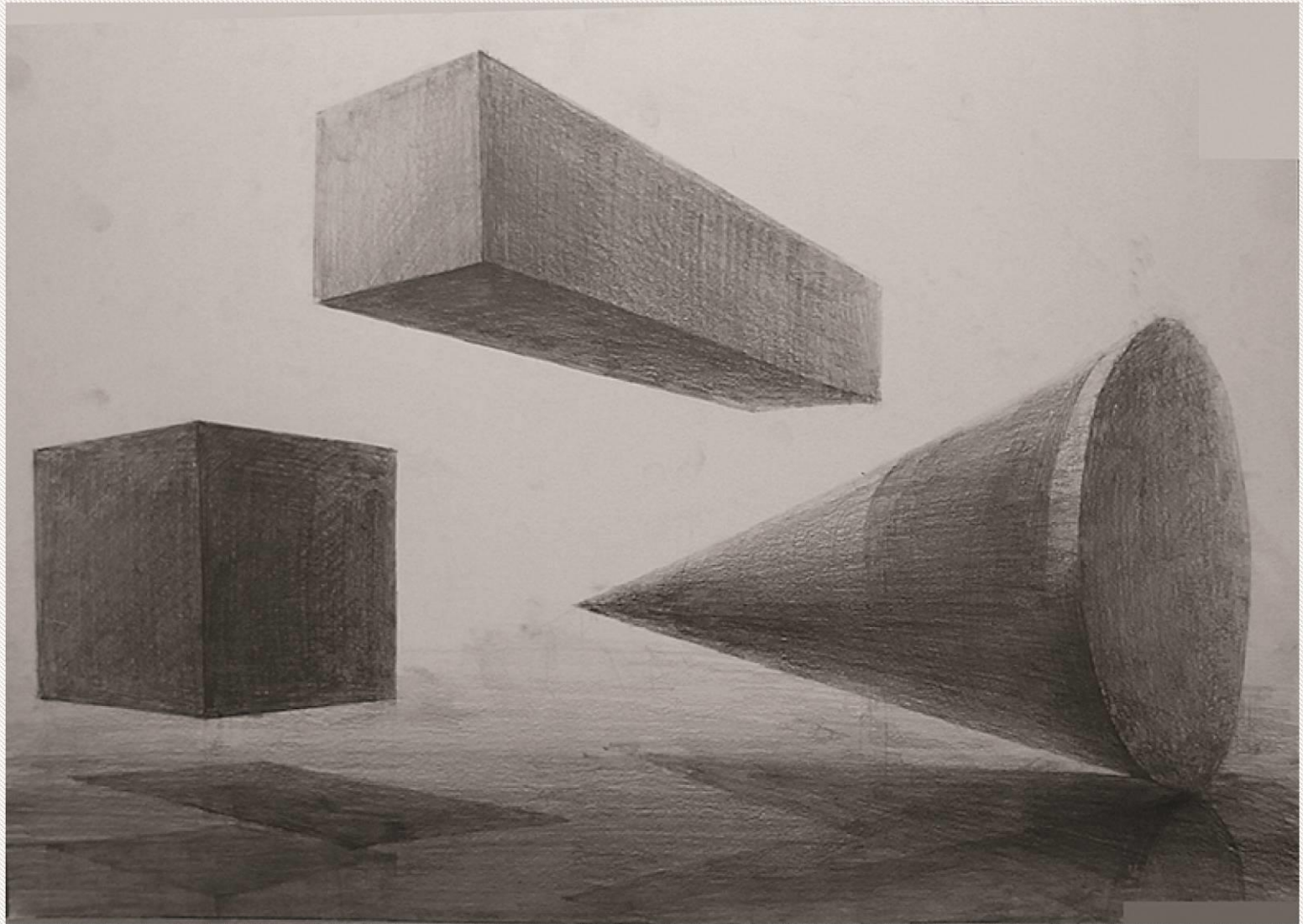
#### 【条件】

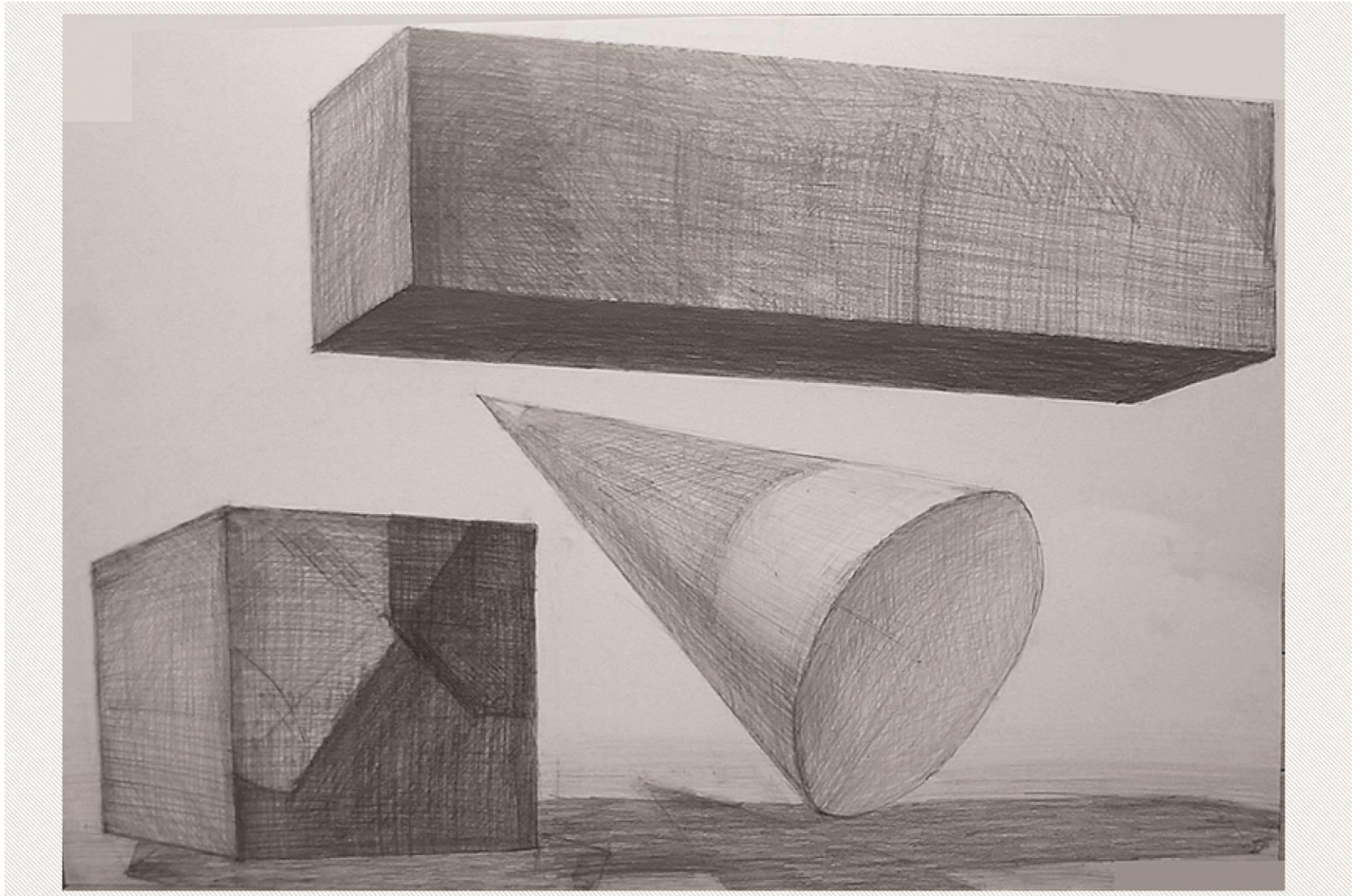
1.  $a = 1$ メートルとし、XY平面上に立つ人間の目の高さに視点を設定すること。
2. 3つの立体の全体が解答用紙の中に入るように描写すること。
3. 複数の立体同士は重なってもよいが、3つの立体すべてが見えていること。
4. それぞれの立体の材質は自由に設定してよい。
5. 描写にあたっては陰影を表現すること。なお、陰影は平行光線によるものとし、その向きは各自が設定してよいが、XY平面上に立体の影が落ちるようにすること。
6. 解答用B3判画紙を横使いとし、鉛筆で描くこと。

建築科の過去問題については

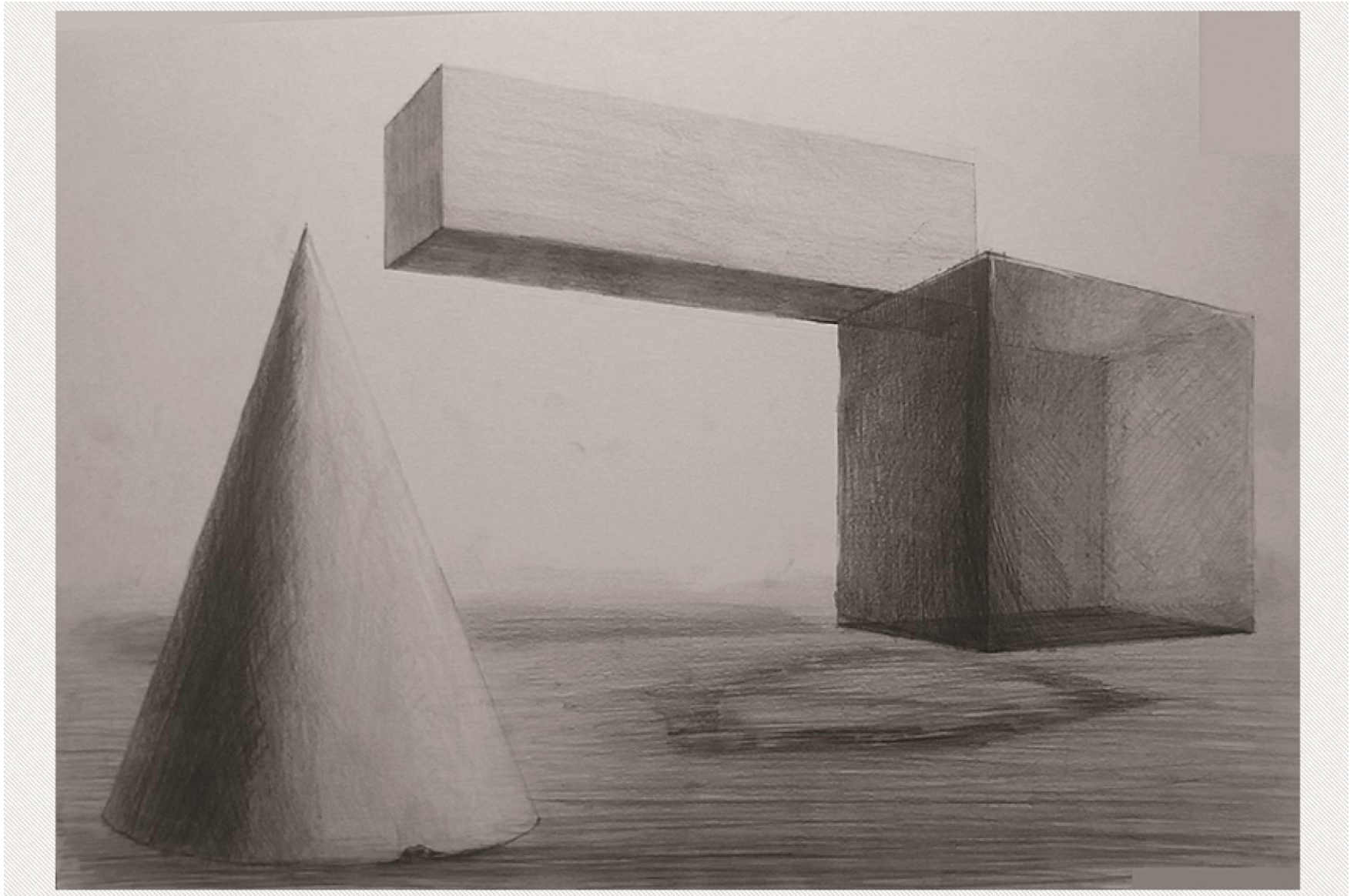
[http://www.geidai.ac.jp/info/pdf/paper25a\\_kenchiku.pdf](http://www.geidai.ac.jp/info/pdf/paper25a_kenchiku.pdf)











## 過去の問題（平成25年度 空間構成）

この試験は、文章や図などで表現された内容から3次元の立体の形状を正確に把握し、それらを用いて「空間」を構成するものです。

この試験においては、

- ① 問題が求めた立体の影の形状や面積の正確な把握
- ② それらの適切な立体構成と創造的な空間構成
- ③ その空間の適切な描写

の3点を主に評価します。

なお、平成25年度入試では、問題で示した立体の形状及び相互の位置関係を正しく描写していない解答が散見されました。採点にあたっては、この点を重視しますので、十分に留意して下さい。

入学試験の参考作品等については

<http://arch.geidai.ac.jp/Examination-25>



## 過去の問題（平成25年度 総合表現）

### 〔問題〕

これから上映する三つの映像は、とどまることのない動きを示したものです。ある一つの動きは、次の動きのきっかけとなり、その連続する動きの中に予測しなかった新しい動きが生まれています。これらの映像を見て、まず、印象に残った動きを抽出しなさい。次いで、その動きの性質や特徴を分析しなさい。そして、分析結果をもとに「動きを感じさせる空間」を、以下の設問に従って表現しなさい。なお、この問題はあなたの構想力、創造力、表現力を考査するものであり、正解を求めるものではありません。

建築科の過去問題については

[http://www.geidai.ac.jp/info/pdf/paper25a\\_kenchiku.pdf](http://www.geidai.ac.jp/info/pdf/paper25a_kenchiku.pdf)

## 過去の問題（平成25年度 総合表現）

### 〔設問 1〕

（1）あなたが抽出したのは、何のどのような動きですか。（2）その動きの性質や特徴をどのように捉えましたか。（3）その動きの性質や特徴と空間の関係はどのようなものですか。以上3点について、A4判用紙に合計300字程度の文章で説明しなさい。

### 〔設問 2〕

「動きを感じさせる空間」の全体像を、解答用B3判画紙に鉛筆のみで描写しなさい。なお、「動きを感じさせる空間」は、架空の敷地30m×30mにあるものとします。（画紙の縦使い、横使いは自由。〔配布品〕④は「動きを感じさせる空間」の造形スタディのために自由に使用してよい。）

### 〔設問 3〕

〔設問 2〕で表現した「動きを感じさせる空間」の最も特徴的な空間を、その中にいるあなた自身目から見たものとして、解答用B2判画紙に鉛筆と配布した色鉛筆を用いて描写しなさい。なお、あなたの姿勢は自由に設定してよいものとします。（画紙の縦使い、横使いは自由。〔配布品〕④は「動きを感じさせる空間」の造形スタディのために自由に使用してよい。）

建築科の過去問題については

[http://www.geidai.ac.jp/info/pdf/paper25a\\_kenchiku.pdf](http://www.geidai.ac.jp/info/pdf/paper25a_kenchiku.pdf)





受験番号

平成25年度 東京藝術大学 美術学部 建築科 入学試験 (総合表現) 【設問1】解答用A4用紙

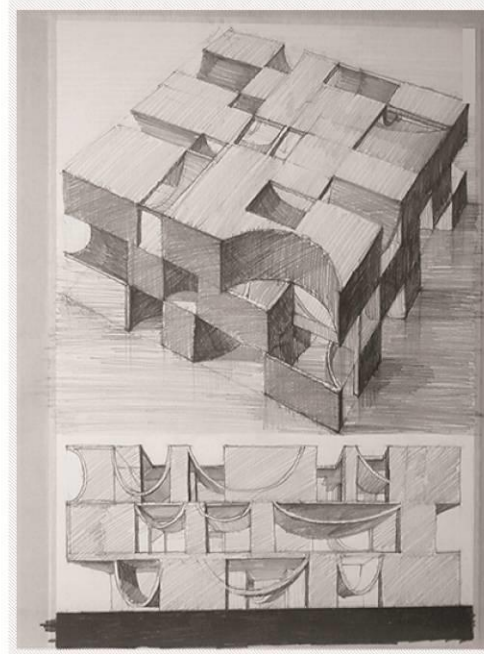
【設問1】合計3000字程度で記入すること。

(1) ギンザの、ゆっくと歩く歩みに着目した。

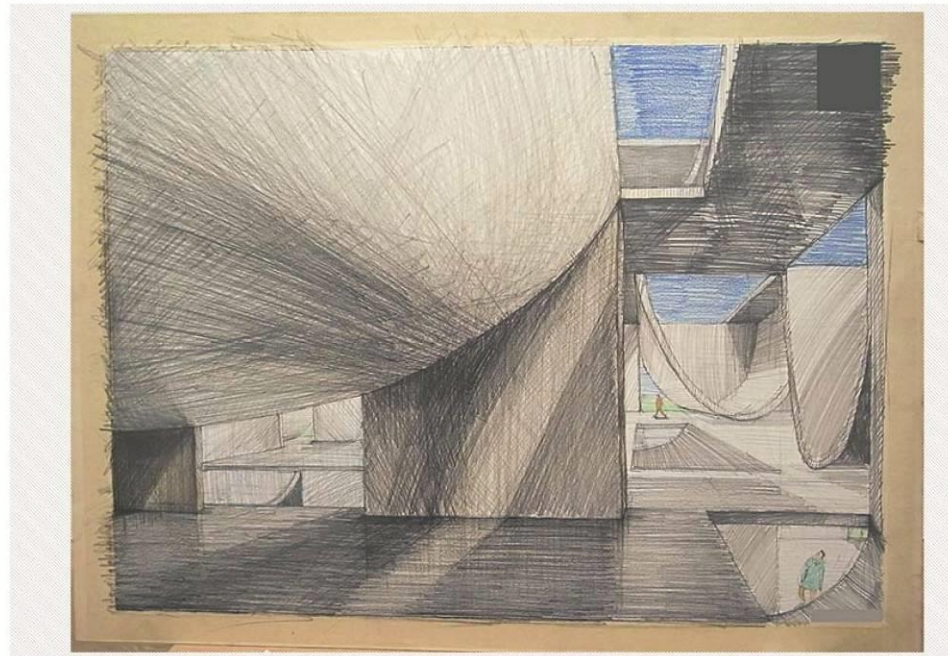
(2) 歩みは途切れ途切れで、ゆたりにしていき。  
歩みが途切れれば、手や足のなめらかな動きが加速して  
踊りの流れは途切れを分た。  
歩く歩みは、ダンスのペースと違って、なめらかな手足の動き  
が、流れやリズム加勢をつくりだしていると感じた。

(3) 途切れ途切れの中、ゆたりに歩むを感得できる空間。  
直角で構成された平面の中に、曲面の壁を配置した。  
その曲面が、空間の空間をうごめかす構成とした。

設問1

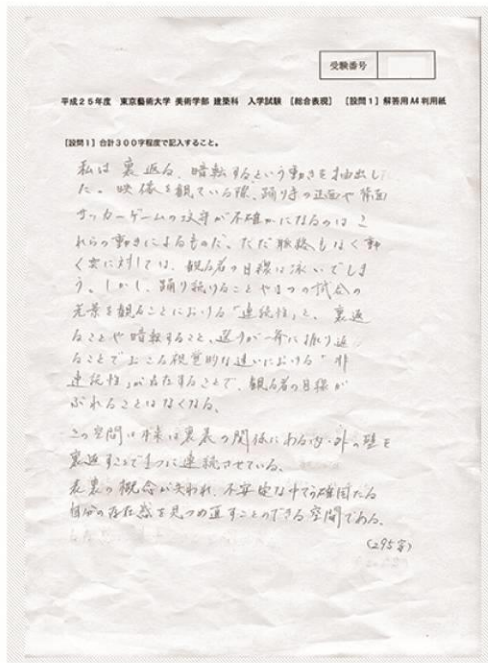


設問2

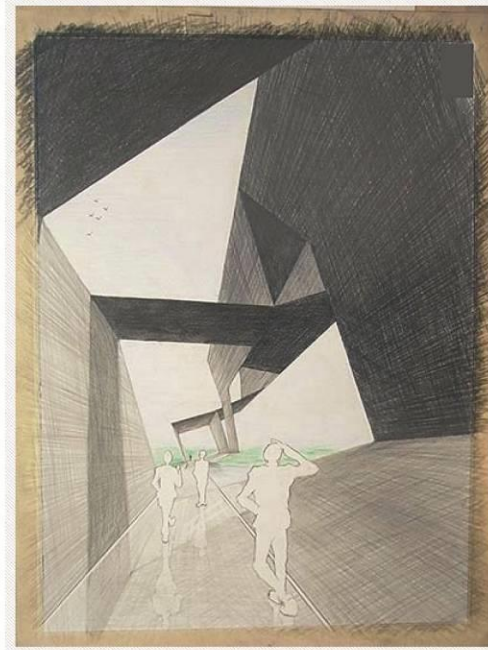


設問3

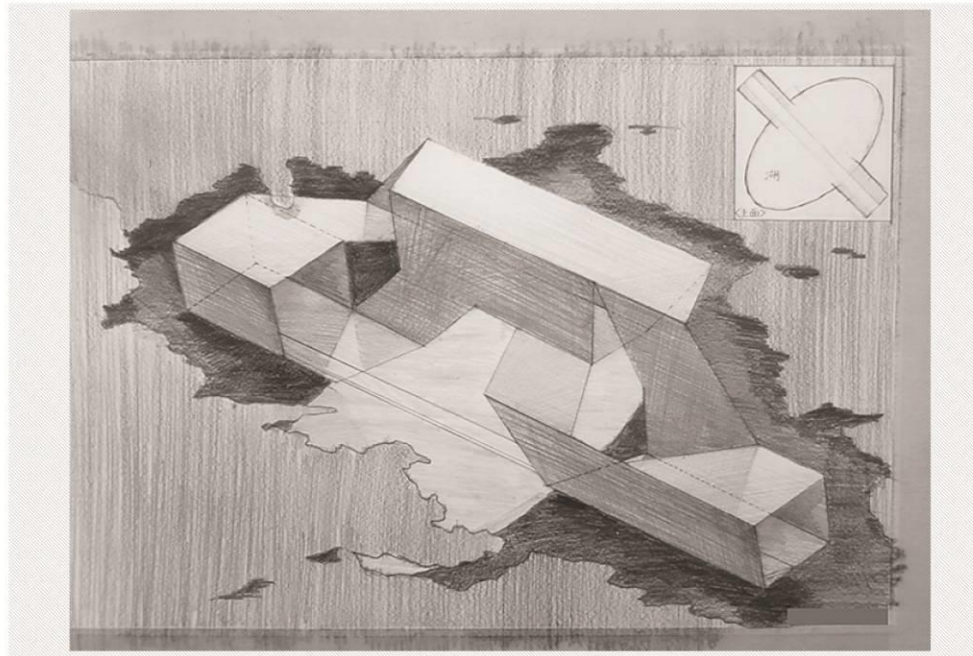




設問1



設問3



設問2

## 過去の問題（平成25年度 総合表現）

この試験は平成23年度から行っているもので、正解を求めるものではなく、受験生の資質と作品の独創性を問うものです。内容は、与えられた素材（文章・絵画・写真・映像など）から、自らがイメージした「空間」を「ドローイング」、「立体」、「文章」などで表現するものです。

評価にあたっては、

- ① 与えられた素材への理解力と洞察力
- ② 空間の創造力
- ③ その空間を表現するプレゼンテーション能力
- ④ 作品の制作意図を的確に説明する能力

の4点を重視した上で、すべてを総合的に判断して適性者を選抜します。

なお、平成25年度の試験では、「動き」という言葉で表現されるものを問題文及び映像からどのように理解し、そこから何を洞察したのか、そしてそれをどのように文章及び図で表現したのかについて留意し、審査しました。単に作図による表現能力だけではなく、文章による制作意図の表現及びそれらの統合力を評価しています。

入学試験の参考作品等については

<http://arch.geidai.ac.jp/Examination-25>



# Web



<http://arch.geidai.ac.jp/>

<http://www.geidai.ac.jp/art/architecture.html>